

自然教育園見ごろ情報

2026年4月2日号

附属自然教育園

検索

詳しくはHPの「見ごろ情報」
をご覧ください
<https://ins.kahaku.go.jp/>



今週はここに注目!

シャガが
咲いています!



路傍植物園



イカリソウ

花の形を船の碇（いかり）に見立てたことが名前の由来。乾燥させたものは、漢方薬としても利用されます。



サクラソウ

花の形をサクラに見立てて「桜草」。江戸時代から盛んに栽培され、多くの園芸品種が今に伝えられています。明治時代に発行された「桜草銘鑑」には331品種が記載されています。



武蔵野植物園で見られます

ジロボウエンゴサク

漢字では、次郎坊延胡索（じろぼうえんごさく）と書きます。三重県の伊勢地方にはスミレを太郎坊、本種を次郎坊とよび、それぞれの種の花どうしを、距（きょ：花びらなどの付け根の突起部分）を絡ませて引き合う遊びがあり、これが「ジロボウ」の由来とされています。「エンゴサク」は中国名（漢名）です。



ノウルシ

茎から出る乳液がウルシのように皮膚にかぶれを起こすことが名前の由来です。湿地に生育する植物で、乾燥に弱く、湿原や河川敷などが減少したことによりあまり見られなくなりました。有毒植物で、誤って食べると胃腸炎を起こすこともあります。



ニリンソウ

主に2輪の花をつけることが名前の由来。地下茎で増えるので、一面に広がって咲く様子がよく見られます。



アケビ

つる性の植物で、同じ木に雄花と雌花をつけます。花びらの中心部が球状に包まるようになっている雄花、花自体が大きく、中心部が放射状に広がっているものが雌花です。実は熟すと裂け、白い仮種皮と果肉は甘く、食べられます。



アケビの実（10月）



ヤマブキシソウ

ケシ科の多年草ですが、ヤマブキ（バラ科の落葉低木）の黄色と同じ花色であることが名前の由来です。「クサヤマブキ」の別名もあります。ヤマブキの花弁が5枚なのに対し、ヤマブキシソウは4枚です。



ヤマブキ

重なった枝が風に揺れる様子「山振り」が転じて「やまぶき」と呼ばれるようになりました。この花の鮮やかな黄色を「やまぶき色」と言います。昔から日本人に親しまれた植物で、「万葉集」には17種が詠まれ、「源氏物語」や「枕草子」にも登場します。

天然記念物及び史跡

科博 自然教育園